

平成29年度

事業年報

千葉県市川健康福祉センター

(千葉県市川保健所)

は じ め に

皆さま、ご承知の通り、来る平成31年4月30日で平成の世が幕を閉じます。平成を保健所数の推移で振り返ってみると、平成元年に全国848あった保健所は、平成30年に469まで減少しました。千葉県でも、県立保健所は18から13に減少しています。保健所数の減少は、保健所の役割が終わりを迎つつあることを示しているのでしょうか？

かつて国民病といわれた結核罹患率（人口10万対）は、平成元年に43.1であったのを、平成29年には13.3に低下させました。麻しんも、WHO西太平洋地域事務局によって日本は排除状態にあると平成27年に認定を受けています。これだけみると、保健所は輝かしい成果を達成し、その使命を果たし終つつあるかに見えます。

しかし、この平成において、私たちは、SARS、MERSといった新たな感染症の出現をみました。国際交流の活発化は、エボラウイルス疾患、ジカ熱等を、昭和の世以上の脅威としました。それら輸入感染症を引き合いに出すまでもなく、平成30年の夏、千葉県では全国最多の風疹が発生し、保健所はその対応に追われています。

平成は阪神・淡路大震災、東日本大震災等、大災害発生の世界でもありました。平成30年7月豪雨災害は、平成30年をDHEAT(災害時健康危機管理支援チーム)活動元年としました。全国から保健所員が被災地に駆けつけ、災害時保健・医療活動のマネジメントを支援しました。保健所の住民の命と健康を守るといった使命は不変であり、業務はより複雑化、多様化したのが平成間にみた変化といえます。

この市川健康福祉センター事業年報は、平成に発行する最後の年報です。平成で千葉県で保健所が減少した一方で、政令市、中核市が新たに保健所を設置し、保健所は市民により身近な存在となりました。私たち県立保健所も、県民にとって身近な存在でありたいと願い、この年報をお届けしています。来年迎える新たな世においても、当センターが住民の命と健康を守る使命を果たせるよう、皆さまからのご支援、ご協力を頂きますことをお願いし、はじめの言葉とさせていただきます。

平成30年10月

千葉県市川健康福祉センター長（市川保健所長） 坂本 泰啓

目

次

I	総括	1	IV	地域福祉課の業務概要	81
1	沿革	1	1	福祉関係事業	81
2	概要	3	V	疾病対策課の業務概要	91
3	管内の状況	3	1	結核予防事業	92
4	健康相談	7	2	感染症予防事業	101
5	各種委員会	8	3	エイズ対策事業	109
6	機構及び事務内容	11	4	原爆被爆者対策事業	111
7	職員数及び配置状況	12	VI	生活衛生課の業務概要	113
II	総務企画課の業務概要	13	1	食品衛生事業	114
1	歳入・歳出決算	13	2	狂犬病予防事業及び動物愛護 管理事業	121
2	医務関係	15	3	環境衛生事業	125
3	薬務関係	18	VII	資料編	131
4	献血推進事業	22	1	市川保健所管内 保健・介護 サービス施設	131
5	地域保健医療計画の推進	22	2	学会・研究会における発表	134
6	情報収集・整理・活用	23	3	表彰関係一覧表	135
7	協議会・委員会の開催状況	28		健康福祉センター案内	136
8	保健所保健・福祉サービス 調整推進事業	29			
9	地域保健従事者研修・保健所 実習	30			
10	広報・啓発事業	31			
11	地域防災対策	31			
III	地域保健課の業務概要	33			
1	保健師関係指導事業	33			
2	母子保健事業	37			
3	成人・老人保健事業	43			
4	一人ひとりに応じた健康支援 事業	44			
5	総合的な自殺対策推進事業	44			
6	地域・職域連携推進事業	45			
7	栄養改善事業	46			
8	歯科保健事業	56			
9	精神保健福祉事業	57			
10	肝炎治療特別促進事業	65			
11	難病対策事業	66			
12	市町村支援	80			

凡 例

- 1 各表、図は、年とあるものは1月～12月の暦年、年度とあるものは、4月～翌年3月の会計年度である。
- 2 各表中、年号表示のない資料は、平成29年度分
(平成29年4月1日～平成30年3月31日)
- 3 各表欄外の注を参照のこと。
- 4 各表の数字は、単位未満を四捨五入してある。したがって、合計表と内訳の計が一致しない場合がある。
- 5 各表の符号は、特にことわりのないほかは、次のとおりである。
 - 「0」掲載単位に満たないもの
 - 「-」該当なし
 - 「…」事実不詳又は資料なし
 - 「△」減少を示す